

# 調査研究視察報告書

会派名 自民清風会

代表者名 小野政明 ㊟

視察者氏名 鈴木雅登 ㊟

|  |
|--|
| 1 視察日  |
| 平成18年8月28日 (月)   |
| 2 視察先  |
| 三重県紀北町 速水林業  |
| 3 視察項目   |
| F S C 森林認証・環境への取り組みについて  |
| 4 視察項目の概要  |
| 川の水が減っているという声をあちこちで聞く。そして川の水が減ると具体的には川に砂がたまり、草が生えることにより草刈が大変になるというような影響があるが、その声を発している意味はもっと深いと理解している。つまり環境変化が川の水の減少に現れているのではないかとということと思う。最近の川の傾向は大雨が降ると極端に増水し、常日頃は水量が少なめということである。それは森林の保水力が低下したことが大きな要因ではないかと考えている。森林の保水力の低下は造林の管理不足にその原因がある。ここで何故造林の管理不足が起こるのかといえば、杉・ヒノキが売れないから造林所有者も管理する意欲が湧かない、という日本の林業全体が抱える構造問題に遭遇することとなる。そこで外国産材木の輸入にかかる税金がないことが日本林業の衰退の大きな要因という状況下でも個別林業者の努力によって採算を確保している速水林業を視察する。川の水が減ったという身近な疑問に対する答えと厳しい環境下においても努力を続ける速水林業の姿を通して林業と環境を考えてみたい。 |
| 5 所感等  |

速水林業のある紀北町は昨日大雨が降ったそうである。しかし、その割には濁った土色の川の水ではなかったのが印象的である。岡崎ならば大雨の翌日の川の色は濁った土色をしているはずである。つまり、川への土砂の流入が少ないことを意味していると思う。それは山の保水力が強いことも意味していると思う。山を継続的に管理するには、その林業者が利益を出し継続的に事業を営むことが必要である。速水林業では「昨年と同じ林業をやりつづければ、会社は潰れる」という言葉を着実に林業経営として実践されているのが大変な説得力をもつ源であった。

苗木の育て方に始まり、山作りを常に考えた間伐や伐採の仕方、林道の整備の仕方とオートバイレースに林道を開放するという発展的な活用方法。下草や広葉樹を上手に生かすことで土砂流出を防いでいる点など。それらをまとめて、ヒノキ・杉以外の広葉樹の低木や下草を生かし、表面土壌の流失を防ぐことで土壌を維持している。そして間伐を欠かさずに日の光をいれて、明るい林を作ることで生物の多様性を確保している。速水林業のこうした環境配慮型の林業経営は国際的機関である森林管理協会の認証を受けているが、このような認証制度を市政に取り入れることは、森林の保水力強化の具体的な対策となるのではないかと考える。また、最近では高性能林業機械の導入により伐採コストの削減が進められているが、その機械の性能を十分に発揮できる環境を整えること、つまり林業地の集約化を図る政策も必要と考える。